

## <授業実践1>「現代の国語」話すこと・聞くこと

### 1 単元名

聞き手に伝わりやすい表現で話す力を身に付けよう

### 2 指導目標

#### (1) 単元の目標（下線部：関連する学習指導要領の指導事項）

・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)のイ)

・話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫することができる。（〔思考力、判断力、表現力等〕A「話すこと・聞くこと」(1)のウ)

・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。（「学びに向かう力、人間性等」）

#### (2) 言語活動

##### ア 言語活動

クラスメイトに向かって自分の考えを発表する。

##### イ 言語活動のねらい

聞き手に伝わりやすい表現という観点を通して、自分の意見を裏付ける「理由」「具体例」「補足説明」などを使って話す能力を身に付けさせたい。また、聞き手の反応を感じ取りながら「語句の選択」や「文の長さ」の表現を工夫すること、更に「表現の言い換え」や「内容の強調」までも意識して取り組むことを指示したい。

#### (3) 教材

##### ア 教材

「伝わるように話そう」（『新編 現代の国語』大修館書店）を参考に作成したワークシート

##### イ 教材観

ワークシートは、「話の始め」「伝えたいこと」「理由、具体例、補足説明」の構成に従って、自分の意見を発表できるように作成した。「理由、具体例、補足説明」などを考えさせる際には、「聞き手に伝わりやすくするために表現をどう工夫するか」という問いかけを強調し、相手に伝わりやすい表現について考えるよう工夫した。また、発表時に相手の反応を感じ取るために視線を聞き手に向けさせたいと思い、発表原稿はあえて箇条書きなどのメモ程度になるようにした。

#### (4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

生徒は伝わりやすい表現で話している動画を各自で探し、自分にとってのグッドモデルを紹介し合う活動を単元導入時に設定した（主体的）。

伝わりやすい表現で話す力が定着するように、テーマを変えながら、ペアになって話す練習を複数回実施した。こうしたペアの活動を通して、伝わりやすい表現について振り返る場面や全体発表に向けて表現をどう工夫するかについて考える場面を設けた（対話的）。

全体発表後に、単元全体を通じて、伝わりやすい表現について自分なりに学んだことや気付いたことを振り返る場面を設定した（深い学び）。

### 3 観点別学習状況の評価

#### (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話し言葉の特徴や表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。	「話すこと・聞くこと」において、話し言葉の特徴を踏まえたり、場の状況に応じて相手の理解が得られるように表現を工夫したりしている。	全体発表に向けて、相手の理解が得られるように表現を工夫しようと粘り強く取り組み、自らの学習を改善しようとしている。

#### (2) 評価方法

##### ア 知識・技能

ワークシートの記述、全体発表時の行動によって評価する。

##### イ 思考・判断・表現（話すこと）

ペアによる発表練習時の行動、全体発表時の行動によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
「話の始め」「伝えたいこと」を述べた後に、「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」を付け加えて話している。	「話の始め」「伝えたいこと」を述べた後に、「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」を、聞き手の反応に合わせて表現を工夫しながら話している。	「話の始め」「伝えたいこと」を述べた後に、「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」を、表現を工夫しながら話している。	「話の始め」「伝えたいこと」を裏付ける理由、具体例、補足説明などの一部分は話している。

##### ウ 主体的に学習に取り組む態度

ペアによる発表練習時の行動、ワークシートの振り返りの記述によって評価する。

	評価A	評価B	評価C
伝わりやすい表現が身に付くように目的意識をもってペアでの話す練習に取り組んでいる（α）。	相手の理解が得られる表現になるよう粘り強く取り組み、複数の工夫をしようとしている。	相手の理解が得られる表現になるよう粘り強く取り組み、工夫しようとしている。	ペアの練習に取り組もうとしている。
全体発表に向けて、表現をどのように工夫すればよいか、学んだり気付いたりしている（β）。	ペア活動や発表を通して、自らの改善点に気付き改善に努め、今後の学習に生かそうとしている。	ペア活動や発表を通して、自らの改善点に気付き、今後の学習に生かそうとしている。	ペア活動や発表を通して、自らの改善点に気付こうとしている。

※ α・βは、それぞれ「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」とする。

4 単元の指導計画（配当6時間）

次 (時間)	学習活動	言語活動における指導上の留意点 *生徒への支援の手だて	評価上の留意点 ◇観点 □点検・確認■分析 *「努力を要する状況」と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。</li> <li>・「伝わりやすい表現」で話している動画『My Good Model』を4人グループで紹介し合う（ワークシート1）。</li> <li>・教科書の内容を参考にしつつ、ワークシートに取り組み、「伝わりやすい表現」について理解を深める（ワークシート2）。</li> <li>・「伝わりやすい表現」を意識して話す内容を考える（ワークシート2）。</li> <li>・発表原稿を箇条書きで書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し言葉の特徴を踏まえた伝わりやすい表現方法について、個々の経験の共有を促す。</li> <li>・ワークシート1は事前課題とする。</li> <li>・タブレット端末を使用し、1人10分程度で紹介動画を見せ合う。</li> <li>*背面黒板にアラームを投影する。</li> <li>・聞き手全員が、他の誰かに紹介できるくらいに理解できるような内容を考えさせる。</li> <li>・発表時に原稿を読むだけにならないように留意する。</li> <li>*「理由、具体例、補足説明」の欄を点検時に、「全員に伝わるようにするにはどう表現すればよいのか」という観点から声かけする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇(知)</li> <li>□「記述の点検」(ワークシート2)</li> <li>*教科書の該当ページを確認するよう助言する。</li> </ul>
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の評価について確認する（ワークシート3）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表のルーブリックについて指導者がモデルを示しながら説明する。</li> <li>*太線で困った内容（本単元で特に身に付けさせたい力）について強調する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇(思)(態)</li> <li>□「行動の観察」(発表の様子)</li> <li>*記述の様子を確認し、「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」を工夫するよう助言する。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペアでの発表練習を三つのテーマについて繰り返し行い、その活動を振り返る（ワークシート3）。</li> <li>全体発表で表現をどう工夫すればよいかについて考える（ワークシート3）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テーマは事前に生徒から募集したのから指導者が三つ選出する。同じテーマで2回発表させる。1回目は座席の隣同士で発表し合い、2回目以降は座席の列をずらして実施する。</li> <li>振り返りは、言葉による表現について行うように強調する。</li> <li>*「全員に伝わるようにするにはどうすればよいか」という観点から声かけをする。</li> </ul>	<p>◇(態)</p> <p>□「記述の確認」(ワークシート3)</p> <p>*次時に向けての工夫を、具体的なセリフで記述するように助言する。</p>
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体に向けて発表する。聞き手は発表を聞き終えるごとに聞き取りシートを記入する（ワークシート4）。</li> <li>単元全体を通して「伝わりやすい表現」について振り返る（ワークシート4）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き手は発表者に視線を向けて聞き、聞き終えてから聞き取りシートへ記入させる。</li> <li>*背面黒板にアラームを投影し、発表時間、聞き取りシートへの記入時間のタイムキーパーは指導者が行う。</li> <li>伝わりやすい表現について、自分なりに学んだことや気付いたことなどを振り返らせる。</li> </ul>	<p>◇(思)</p> <p>■「行動の分析」(発表の様子)</p> <p>◇(態)</p> <p>■「記述の分析」(ワークシート4)</p> <p>*次の単元に向けて、何ができるようにになりたいか記述するように助言する。</p>

## 5 本時の指導計画

### (1) 本時の具体的な目標

クラスメイト全員に伝わるように表現を工夫して発表する。

### (2) 本時の具体的な評価規準

「話の始め」「伝えたいこと」を述べた後に、「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」を、表現を工夫しながら話している。

### (3) 本時（全6時間中の6時間目）の指導計画

学習段階	学習内容	学習活動	言語活動における指導上の留意点
導入 (5分)	・本時の目標、活動内容を確認する。	①前時の内容と本時の活動（ワークシート4）を確認する。	①発表は名簿番号順とするが、先に発表したい者を優先とする。
展開 (30分)	・全体に向けて発表する。	②全体に向けて発表する（1分間）。	②発表テーマは練習した三つの中からランダムで与える。

		<p>③聞き手は、発表を聞き終えるごとにワークシート4（聞き取りシート）を記入する（1分30秒）。</p> <p>②、③を全員が終わるまで繰り返す。</p>	<p>③聞き手はメモを取らず、発表者に視線を向けるように指示する。発表者は聞き手の反応を感じ取りながら発表することを目標にさせる。</p> <p>発表時間、聞き取りシートへの記入時間のタイムキーパーは指導者が行う（背面黒板にアラームを投影）。</p> <p>■発表の様子を見て評価をする。また、記録用として発表の様子をタブレット端末で撮影しておく。</p>
<p>終結 (15分)</p>	<p>・単元全体を通した振り返りをする。(ワークシート4)</p>	<p>④伝わりやすい表現について、自分なりに学んだことや気付いたことなどを振り返る。</p>	<p>④他の人の発表を聞いたことも踏まえて、伝わりやすい表現について振り返らせる。</p>

## 6 研究の実際と考察

### (1) 主体的に学習に取り組む態度の評価について

ワークシート3「振り返り①」「振り返り②」において、表現を工夫しようとしている内容が記述されているかを確認し、「粘り強い取組を行おうとする側面（α）」を評価した。「表現を工夫しようとしている内容」と認めた生徒の例「(相手が知らなそうな内容なので) 例え話を二つ話すようにしたい」「いろいろな音楽と話してしまったのを、具体的に、洋楽のロックで、ブルーノーマーズの曲と話すようにしたい」などである。こういった内容が確認できればB評価とし、その工夫内容が複数ある場合はA評価とした。言葉による表現の工夫内容が確認できない場合はC評価(生徒例「緊張してしまったので次はゆっくり話したい」とし、「あなたが話す内容の中で、相手が知らなくて詳しく言った方がよい内容は何か」「相手に伝わりやすくするためにどんなセリフだとよいか」などと助言し、言葉による表現に着目させるように指導した。

ワークシート3「全体発表のとき、クラス全員に内容が伝わるようにするためには、表現をどう工夫すればよいですか」の項目において、伝わりやすい表現についての工夫内容が記述されているか、さらに、ワークシート4「①練習のときに設定した『全体発表に向けた自分の目標』は達成できましたか」の項目において、目標達成に向けて表現を改善しようとした内容が記述されているかを分析し、「自らの学習を調整しようとする側面（β）」を評価した。「伝わりやすい表現についての工夫内容」と認めた生徒の例は「難しい言葉を簡単な言葉に言い換える」「例え話をする」などである。こういった記述がある場合はB評価とした。こうした記述内容に加え、ワークシート4の①の項目に「表現を改善しようとした内容」が確認できる場合はA評価とした(生徒例「たくさんの情報を伝えると聞いている側は分かりにくくなってしまっているので、選びながら詳しく伝えるようにした」「ただ具体例を言うのではなく、みんなにとって身近な内容やふだん目にするような例で例えるようにした」)。言葉による表現に着目できていない内容はC評価とした(ワークシート3)。

## (2) 思考・判断・表現の評価について

第3次の全体発表における行動を分析し、思考・判断・表現を評価した。生徒の発表内容を、「話の始め」が話せているかどうか、「伝えたいこと」が話せているかどうか、「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」が話せているかどうか、の三つを確認項目の基本とした。これら三つの項目を順序立てて話せていた場合はB評価とした。これに加え、聞き手の反応に合わせて表現を工夫した内容が見受けられた場合はA評価とした（生徒の発言例「みなさん、フィリピン料理のキニラウって知っていますか。キニラウとは、日本料理で言うとマグロの刺身です。（聞き手の反応を感じ取っている様子が、間や表情から感じられた。クラス全員がまだイメージできていない様子だったと感じ取ったらしく、追加で）マグロの刺身をキュウリなどの野菜とお酢で和えてマリネみたいにしたものなんです」。「話の始め」「伝えたいこと」「伝えたいことを裏付ける理由、具体例、補足説明など」の一部分しか話せていない場合や、話す内容の順番が理由から話し始めてしまったなど、順序立てられていない場合はC評価とした。

複数の指導者が指導に携わったとしても評価の基準が統一できるように、話の内容の質を中心に評価するのではなく、話せていたかどうかという観点を中心に評価するようにした。基本的には、生徒の発表を聞きながらリアルタイムで評価を行ったが、記録確認用としてタブレット端末を後方に配置し、撮影するようにした。また、スムーズに発表や聞き取りの活動が行えるように、時間計測として、背面黒板に、タブレット端末搭載の「アラーム&クロック」のアプリを投影した。1分間でアラームが鳴るように設定し、アラームが鳴ったら、指導者が指示を出さずとも活動の切り替えを行うように指示したおかげで評価に専念することができた。

## 7 研究の成果と課題

思考・判断・表現の評価がA評価の生徒の割合は15%、B評価は80%、C評価は5%という結果であった。また、事前に原稿を作成して発表させていたときよりも、聞き手に視線を向けた状態（発表時間中全ての時間にわたって視線を向けている状態）で話すことができるようになった生徒は95%に上昇した。これらの結果から、聞き手に視線を配りながら、伝わりやすいように表現を工夫して話すことができるようになったと言える。しかし、聞き手の反応を感じ取りながら、それに合わせて臨機応変に表現を工夫する力は十分に身に付いていないと感じた。この課題を改善するために、今回、A評価とした生徒たちが発したセリフをグッドモデルとして例示し、聞き手の反応によってどのように表現を工夫すればよいか、について考える活動を設定していきたいと考える。